

施策番号	1804										
施策名	新しい学習環境づくり										
概要	老朽化した学校施設の機能改善の際、環境やバリアフリーに配慮し、子どもが安心して快適に過ごせる学習環境を整備する。										
担当局・部室	教育委員会・総務部、教育環境整備室	共管局・部室									
上位政策	18 学校教育										
施策に関する主な分野別計画等											

施策の評価

1 客観指標評価

	指標名	27年度	28年度	29年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウエイト
1	大規模整備事業実施校数(件)	-	a	10	22	20	110.0%	a	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
				a	a	客観指標総合評価			a

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

	設問	27年度	28年度	29年度回答						
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと 言うとそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数	評価
1	安全快適な学校施設や最新の設備など、充実した教育環境が整っている。	b	b	54	146	155	43	17	415	b
				13.0%	35.2%	37.3%	10.4%	4.1%		
2	-	-	-							-
3	-	-	-							-
4	-	-	-							-
5	-	-	-							-
				b	b	市民生活実感調査総合評価			b	

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

A	施策の目的が十分に達成されている					28 年度	A		
	重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	a	<input type="checkbox"/> 市民の実感	b				
(重み付けの理由)									
市立学校施設整備という対象が限られた施策であり、市民の生活実感に施策の効果がすぐには反映されにくい性質があるため客観指標を重視する。									
(原因分析) 客観指標総合評価									
<input checked="" type="checkbox"/> b 評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。									
<input type="checkbox"/> c 評価以下であり、次の原因が考えられる。									
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価									
<input checked="" type="checkbox"/> b 評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。									
<input type="checkbox"/> c 評価以下であり、次の原因が考えられる。									

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		29年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		28年度 決算額	29年度 予算額		
1	学校コンピュータ環境整備	720,849	760,968	良い	教育委員会
2	私立学校等助成	63,728	71,021	良い	教育委員会
3	私立幼稚園等助成	430,735	478,720	かなり良い	子ども若者はぐくみ局
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・省エネルギー化やバリアフリー、更には施設の長寿命化という観点を踏まえながら、子どもたちが利用しやすく、快適に過ごすことのできる学習環境の整備を引き続き進める。
- ・災害時には地域の防災拠点として機能できるよう、防災機能の強化、耐震性能の向上の観点から整備を行う。

施策名	1804	新しい学習環境づくり																																					
指標名	大規模整備事業実施校数（件）																																						
担当課	教育環境整備室	連絡先	222-3796																																				
<p>1 指標の説明</p> <p>新たな学習環境づくりのために、老朽化した学校施設の機能改善の際、環境に配慮した改修を行うとともに、災害時を想定した避難所施設としての機能向上、耐震性能の向上の観点から整備を行った件数</p>																																							
<p>2 指標の意味</p> <p>学びの場であり地域の拠点である学校を環境に配慮しながら改修し、防災拠点としての機能を付け加える指標</p>		<p>3 算出方法・出典等</p> <p>算出方法：改修実績数を計上 出典：事業担当課調べ</p>																																					
<p>4 数値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">前回数値</th> <th rowspan="2">推移</th> <th colspan="3">目標値</th> </tr> <tr> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>数値</th> <th>根拠</th> <th>達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数値</td> <td>10</td> <td>22</td> <td>12件増</td> <td>20</td> <td>平成32年度までに60件の整備を行うために、当該年度に達成すべき数値</td> <td>110.0%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">全国順位</th> <th colspan="3">中長期目標</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>数値</th> <th>目標年次</th> <th>達成度</th> <th>根拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数値</td> <td></td> <td>60</td> <td>32年度</td> <td>36.7% 京プラン実施計画 第2ステージ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						前回数値		推移	目標値			27年度	28年度	数値	根拠	達成度	数値	10	22	12件増	20	平成32年度までに60件の整備を行うために、当該年度に達成すべき数値	110.0%		全国順位	中長期目標			備考	数値	目標年次	達成度	根拠	数値		60	32年度	36.7% 京プラン実施計画 第2ステージ	
	前回数値		推移	目標値																																			
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度																																	
数値	10	22	12件増	20	平成32年度までに60件の整備を行うために、当該年度に達成すべき数値	110.0%																																	
	全国順位	中長期目標			備考																																		
		数値	目標年次	達成度		根拠																																	
数値		60	32年度	36.7% 京プラン実施計画 第2ステージ																																			
<p>5 評価基準</p> <table border="1"> <tr> <td>最新数値の目標値に対する達成度が a:80%以上～(28年度16件以上) b:60%以上～80%未満 (28年度12件以上16件未満) c:40%以上～60%未満 (28年度8件以上12件未満) d:20%以上～40%未満 (28年度4件以上8件未満) e:0%以上～20%未満(28年度0件以上4件未満)</td> <td>目標値を年度毎に設定した上で(累計) 27年度目標値10件 28年度目標値20件 29年度目標値30件 30年度目標値40件 31年度目標値50件 32年度目標値60件 80%以上をaとし、以下20%刻みで基準を設定した。</td> </tr> </table> <p>6 基準説明</p>					最新数値の目標値に対する達成度が a:80%以上～(28年度16件以上) b:60%以上～80%未満 (28年度12件以上16件未満) c:40%以上～60%未満 (28年度8件以上12件未満) d:20%以上～40%未満 (28年度4件以上8件未満) e:0%以上～20%未満(28年度0件以上4件未満)	目標値を年度毎に設定した上で(累計) 27年度目標値10件 28年度目標値20件 29年度目標値30件 30年度目標値40件 31年度目標値50件 32年度目標値60件 80%以上をaとし、以下20%刻みで基準を設定した。																																	
最新数値の目標値に対する達成度が a:80%以上～(28年度16件以上) b:60%以上～80%未満 (28年度12件以上16件未満) c:40%以上～60%未満 (28年度8件以上12件未満) d:20%以上～40%未満 (28年度4件以上8件未満) e:0%以上～20%未満(28年度0件以上4件未満)	目標値を年度毎に設定した上で(累計) 27年度目標値10件 28年度目標値20件 29年度目標値30件 30年度目標値40件 31年度目標値50件 32年度目標値60件 80%以上をaとし、以下20%刻みで基準を設定した。																																						
<p>7 評価結果</p> <table border="1"> <tr> <td>27</td> <td>28</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>a</td> <td>a</td> </tr> </table>					27	28	29	-	a	a																													
27	28	29																																					
-	a	a																																					